

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170300406		
法人名	(有)ハートコネクト		
事業所名	グループホーム さくらの樹		
所在地	佐賀県鳥栖市弥生が丘4丁目22番		
自己評価作成日	平成25年10月21日	評価結果市町村受理日	平成26年1月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	平成25年11月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

『楽しいわが家 明るい家族』をモットーに、いつも明るく笑顔が絶えない家庭的な施設を目指しています。日頃から、会話や声掛け、表情の観察を大切にして、少しの気付きも関わる全ての職種で情報を共有し、ご家族とも相談しながら、いつまでもその人らしく残りの人生を過ごされる様に、常に最善のケアが出来るように心掛けています。恒例となっている行事では、その方の誕生日当日に行う誕生日会や季節の行事には近隣の方やボランティアの方々を積極的に受け入れて、一緒に楽しんで頂いており、又、ランチ外出や季節のお花見外出も皆さんの楽しみの一つになっています。毎日の食事も朝食は一汁二菜、昼食夕食は一汁三菜と旬の野菜を取り入れ彩りも工夫しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

市の新興住宅地に位置する平屋造りのグループホームである。近くに大きな国道や駅があるなど交通の利便性が良く、周囲に病院や公園・保育園・小学校・飲食店等が点在する環境にある。地域住民からも良く周知され、行事への参加や避難訓練等への協力を得られるなど、日頃から積極的な交流が図られている。開設から9年目を迎え入居者の重度化が進む中でも、毎月の花見や夕食等の外出、サンデッキを利用したお月見やお茶会が催され、いずれの活動にも入居者全員が何らかの形で参加できるよう支援されている。また、本人の幼少期、学校時代、結婚式、子育て時代等々の写真を飾り、回想法を取入れながら入居者一人ひとりの思いやその人らしさを引き出せるよう日々努められている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「皆さんと共につくる 楽しいわが家 明るい家族」の理念を掲げています。玄関から入ってリビング入口の目に付く場所に掲げ、いつでも意識出来るようにしています。また、毎月の全体会議でも管理者や職員全員で読み上げ確認し合い、日々の業務の実践につながっています。	理念はリビングに掲示され、毎月の会議の場で唱和されている。また、勤務年数の長い職員が多く、理念は職員全体で周知され、日々のケアに活かされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティアの方の誕生日会、敬老会、クリスマス会等の行事への参加や小学校の交流授業の受け入れも積極的に行い、また、地域の運動会は見学に出掛けたりと、地域の一員として交流出来るように日々努めています。	地域の運動会や夏祭りに、手作りの浴衣を着る等して参加したり、「子供110番の家」活動への協力・保育園からホームのクリスマス会への参加等、日頃から地域との交流が図られ、協力関係が築かれている。近隣の住民からの野菜の差し入れ等もあっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談や見学にはいつでも丁寧に対応する事を心掛けています。また、地域の「こども110番の家」でもあり、いつでも開放的な施設であるように努めており、毎日の様に様々な訪問があっています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族の代表、区長、民生委員、近隣の方、地域包括支援センターの担当者様、等、多方面からの参加を頂いています。消防訓練にも参加頂き様々な意見も聞く事が出来ています。	出席者からの意見聴取及び意見のホーム運営への反映・近隣住民の会議への参加・運営推進会議の記録も整理され、家族への報告もなされている。現在、年6回の開催までには至っていない。	ホームが開放的な状態である為にも、開催回数を年6回を目指す取り組みが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険課やグループホーム協議会には必要に応じて相談したり助言を頂いたりして協力関係が出来ています。	市の担当課・担当者とは日頃から気軽に相談できる関係が構築されている。相談したい事があれば、出向いて行ったり電話などで意見や助言を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開設時より日中の施錠はせず、夜間以外は常時開放しています。身体拘束のマニュアルも作成し内容についても全ての職員が十分理解できており、身体拘束につながるような事は十分検討し合う様にしています。	身体拘束とはどんなものか、また拘束がもたらす弊害等について、日頃のケアの中で申し伝えられている。職員全体への研修も実施されており、玄関の施錠を含め、拘束についてはこれまでも、現在も行われていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	責任者会議や全体会議でも学び話し合う機会を持ち、さらに見過ごされることの無いようにいつも職員同士で注意し合うように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、安心サポートの利用をされている方はおられますが、今後利用になる事も踏まえてさらに理解を深めていきたいと思っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に施設内の見学や説明を行い、契約を結び同意書を頂く様に努めています。契約後も改定時はもちろん常時、不安や疑問等が無いが再確認もしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的な会話や表情からでも意見や要望を汲み取る様に努めると共に、いつでも話しやすい雰囲気できるようにしています。また、ご家族の面会も多く日常の報告や要望を聞く事が出来ています。	日々の訪問や、誕生会・クリスマス会等の行事への参加も多く、会話の中から要望や意見等の思いを把握できるよう工夫されている。訪問しやすい雰囲気作り、意見を言いやすい関係作りにも努められている。玄関には意見箱も設置されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は毎日の申し送り事項を確認すると共に、様々な意見や提案を聞く事が出来ています。また、意見などあれば協議検討できるように『ケース検討議案書』を準備しており、責任者会議や全体会議で話し合う様にしています。	毎月の全体会議や責任者会議、毎日の申し送り時等を通し、職員からの意見や提案を聞くよう努められている。年2回は食事会も開かれるなど、意見を出しやすい関係作りと、会議の前に『ケース検討議案書』を全職員が出すような仕組みを作り、意見の把握に努められている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	無理なく勤務出来るように出来る限り希望に添えるようにしています。また、それぞれの特技を活かせるようなシフト体制にも努めています。年に2回は代表者との食事会、昇給や賞与も給与規定に基づき充実しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修については、都度公表して参加を募っています。研修も勤務扱いにする事でより参加しやすい様になっています。内部的にもシフトの工夫で職員同士での資質向上に努め、毎月の全体会議でも様々な議題を設け、学べるような体制が出来ています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協議会や様々な研修会を通して交流し、得た情報や学んだことを全体会議で発表して、サービスの質の向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居され間もなくは、特にご家族の協力を得ながら積極的な関係作りに努めています。その中でご本人に必要な支援を見極め、早期に安心して生活が出来る様に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入居の相談の段階でもご本人ご家族の状況や要望、様々な気持ちを受け止め、早期に安心と信頼関係が出来るように心掛けています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている支援については様々な方面の専門家から情報を得たり、利用の検討も行っています。また、今後予想される状況についても十分に視野に入れた対応を心掛けています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の大先輩でもある入居者様には教えて頂く事も多く、日々の生活の中でも役割を持って頂いています。また、一緒に傍で過ごし、いつも声掛けを行う事で利用者様のいろいろな気持ちを感じていけるように努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人ご家族の絆を大切にする意味でも、いろいろと相談させて頂き、快くご協力も頂いています。行事ごとの参加、全体外出の同行等もたくさんのご協力も頂いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでもどなたでも来訪して頂けるような環境づくりを心掛けています。ご家族はもちろん馴染みの方々の面会も多く、今までの関係を保つ事も出来ています。また、ご本人の近況を報告する事でさらに深くご本人の気持ちを理解する事も出来ています。	家族や知人の面会も多く、訪問しやすい雰囲気作りにも努められている。面会時には写真を撮り、会話のきっかけ作りとなるよう工夫もされている。また、故郷の梅の見学、お墓参り、博多への観劇等々、できる範囲で入居者一人ひとりが大切にしている馴染みの場との関係の継続にも努められている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様それぞれの性格や身体の状態を把握して居場所を作り、また、利用者様同士いい関係になる様に職員が介入していつでも安心して生活出来るように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	時々、電話や来訪されての相談も受けています。また、こちらから電話で近況をお尋ねしたりして関係の継続に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりや声掛けをしていく中で、お話された事や表情、わずかな反応からでもご本人の気持ちを汲み取り、記録に残しているも検討していけるようにしています。	一人ひとりの言葉や会話を記録として残すと共に、昔の写真等を引き伸ばし、歴史ストーリーを探ることで思いや意向の把握に努められている。また、“思いやりの一言”という事で、入居者に寄り添う言葉かけも全体で工夫されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居時には出来るだけ多くの情報を得られるように、ご家族や関係者の方々に聞き取りを行い、継続した生活が出来るように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	時系列式の個人記録を使用して、勤務者全員が記入するようにしています。利用者様の一日の生活内容、ケア内容、気持ちの変化も記入しており、全職員で現状の把握にも努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	近況は毎月のホーム便りでお知らせしたり、面会時にも報告して、ご意見や要望もお尋ねしています。申し送りや責任者会議、全体会議でも話し合いより良く生活出来るように努めています。	毎月のカンファレンスの中でモニタリングを行い、3ヶ月毎に評価が実施され、計画が見直されている。状態の変化時の随時の見直しも実施されている。より具体的な目標を立てる事で、入居者一人ひとりの生活の質を上げる事ができるように、取り組まれている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個人記録には勤務者全員が入居者様それぞれの記入をする事で、様々な気づきが得られるようになっており、日々のケアや介護計画に活かす事が出来ています。また、1人の職員が様々な時間帯に勤務して利用者様の時間帯での変化にも気付けるようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	様々なニーズにいつでも柔軟に対応できるように、職員の配置にゆとりを持たせています。ご本人ご家族とも相談して他職種からの支援も取り入れています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様の知人、昔からの友人、町内の保育園や小学校、近隣のボランティアさん等、様々な方面からの訪問や支援も頂いており、利用者様の楽しみの一つにもなっています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望により以前からのかかりつけ医への受診をされている方もおられます。また、24時間対応の訪問診療は毎週木曜日の往診でご家族の立ち会いでの説明や相談にいつでも対応できる体制にしており、安心して頂いています。	入居者・家族の希望のかかりつけ医のもとで、適切な医療が受けられるよう支援されている。24時間対応可能な協力医療機関が近くにあり、連携が図られている。受診は家族が対応しているが、必要時はホームでの対応も行われ、情報も共有されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場の看護師や訪問診療の看護師と普段から情報の共有を行い、些細な変化や気づきを早目に報告連絡をする事で、往診日に適切な検査等を出来るようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の不安を少しでも軽減できるように職員は出来る限り面会し、利用者様からのメッセージ等も届けるようにしています。また、早期退院の為にも入院中はもちろん、日頃からソーシャルワーカーの方との情報の交換にも努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご入居時には施設で可能な終末期ケアの説明とご本人ご家族の意向まで確認しています。早期より希望に添える生活を送れるように、終末期と主治医が判断した場合は納得出来る最期を迎えられるように何度も話し合う機会を設け、情報を共有してチームで支援出来るように努めています。	入居時にホームでできる終末期のケアについて説明を行っている。ホームでの看取りも対応できる体制もあり、実際に数名の方の看取りも行われている。家族や主治医と、その都度確認を取りながら情報を共有し、チームでその人らしい納得できる最期を迎えられるよう支援されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救命救急士による心肺蘇生術、AED操作の講習を行って頂いており、職員全員が毎回実習出来るように時間も十分とっています。また、各自でいつでも確認出来るように対応マニュアルも準備しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防署と業者の指導による避難訓練を行っています。夜間出火の想定でご近所の方、区長さん民生委員さんの参加も頂いています。また、ご近所の方がご厚意により近隣の電話連絡網も作って下さっています。	避難訓練は夜間想定で年2回実施され、地域住民の協力も得られている。また、近隣の厚意により近隣住民の電話連絡網が作成されている。職員も火災時の避難誘導に関しては、その方法について情報を共有されている。	火災以外の災害に対しても、避難場所・避難経路の確認等を含め、対策を検討されることに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	いつでも尊厳を持った対応や声掛けをするように心掛けています。毎月の全体会議では場面場面での具体的な声掛けの仕方について学び、実践出来るようにしています。	丁寧な言葉かけとゆったりとした雰囲気作りに努められている。職員全体で入居者の羞恥心に配慮し、人格や誇りを損ねないような支援ができるよう、日々検討を重ねられている。個人情報についても、事務所で書類は管理されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	いつでもご本人の希望や気持ちを最優先出来るように優しい雰囲気作りと、利用者様の能力に応じて意思表示しやすい声掛けの工夫に努めています。また、表情等でも感じとれるように日頃からの様子や会話も記録に残し、ケアに活かしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の流れはありますが、お一人お一人の以前からの生活のペースや現在の状態に応じてその人らしく生活してもらう様に支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝の日課でお化粧や髭そりの支援をしたり、出来る限り衣類もご本人で選んでもらえるような声掛けや選んでいる雰囲気味わってもらう様に声掛けの工夫もしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の能力に応じて出来ることを手伝って頂いたり、キッチン周りで声掛けしながら調理や片づけを行う事で、食事作りに参加している気分も味わって頂いています。	旬のものを採り入れた食事を作られている。誕生会の折には希望食が用意され、月に1回は全員での外食の機会も作られている。食事の一連の流れの中で、活躍できる場も提供されており、職員も一緒に食事をとりながら、さりげない支援に努められている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は毎食後、水分摂取量は毎晩チェックして、利用者様の状態の把握に努めています。食事形態も個々の状態に合わせてミキサーやトロミを検討したり、水分食事が摂りにくい方にはポカリや栄養補助食品の利用も行っています。テーブルに個人用の水筒と湯飲みを準備して、いつでも水分摂取出来る様にもしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者様に応じた口腔ケアを行っています。義歯は定期的に洗浄液に浸漬して清潔保持にも努めており、定期的な歯科診療により口腔内のチェックや清掃を受けておられる方もいらっしゃいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は全ての利用者様にトイレでの排泄をして頂いています。排泄チェック表を活用して個人個人の排泄パターンや1日の排尿排便の回数も把握するように努めています。	排泄パターンを把握し、日中はトイレでの排泄を基本とし、排泄の自立に向けた取り組みがなされている。いつでも好きな時に飲めるよう、入居者一人ひとりにセンナ茶や麦茶等が入った水筒を常備されている。水分量の把握と自然な排便を促されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	普段の食事には旬の野菜や繊維質の多い食材を取り入れています。また、水分は手の届く所に個人の水筒と湯飲みを準備しており、ご自分で飲まれたり、介助して飲んで頂いたり、いつでも気軽に水分が摂れるようにしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の当日の体調や気分に応じて入浴して頂いています。職員と1対1での時間で、衣類選びから入浴、入浴後の爪切り等のケアを行う事でたくさんの会話も生まれ、利用者様の楽しみの一つにもなっています。	1対1の対応で、着替えの用意から入浴、爪切りまでの流れをゆっくり楽しむ工夫がなされている。時間や曜日にも特に定めず、希望に応じた対応がなされ毎日の入浴も可能である。しょうぶ湯、ゆず湯等の季節毎の楽しみも大事にされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入床時の寝付きが良くない方には、入床前に足浴を実施したり、夜間の睡眠に支障の無い様に注意して、日中もその方の状態に応じて臥床して頂く時間も作っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬中の薬に関しては利用者様毎にファイルしており、いつでも確認出来るようにしています。追加変更薬に関しても考えられる副作用について全職員が別紙でも再度確認出来るように努めています。毎週木曜日の薬剤師の先生の訪問時にもさらに詳しい説明や質問等出来る体制にもなっています。また、誤薬の無い様に職員2名で指さし読み上げ確認をしております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの生活歴や趣味を把握して、好きな歌手の歌を歌って頂く、ファッション誌を見て頂く、会話に取り入れる等、出来るだけ生活の中にも取り入れる様に工夫をしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	毎日、午前と午後はサンデッキの散歩を取り入れて、身体でも季節を感じて頂いています。また、毎月1回は全体外出でランチに出掛けたり、季節のお花見に出掛けたり、利用者の皆さんの楽しみの一つにもなっています。	毎月外食や花見ドライブが実施されている。また、ホームの周囲を囲むようにサンデッキがあり、ホームに居ながら、外気浴を兼ねた散歩ができる。天気の良い日は近くの公園までの散歩も行かれ、入居者の希望によっては博多まで観劇にも出かけられている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理まで出来る方は現在おられません。外出時には代表して支払いをして頂く等、お金を使う機会を作る様に支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族へ年賀はがきを送ったり、遠方からのご家族からの贈り物には、電話でお礼を言って頂けるよう支援したり、継続した関係作りに努めています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な環境づくりを心掛けています。リビングでは調理中も利用者様とのコミュニケーションが図れるようなキッチンの配置で自然とキッチン周りに集まって会話を楽しんだり、調理の音や匂いからも生活感を味わって頂いています。また、吊るし飾り、壁面飾りも季節感を取り入れ、ご家族の持参して下さる花々にも季節を感じて頂いています。	毎朝窓を開けての換気の時間が設けられ、掃除も行き届き、明るく清潔感がある。混乱を招くような音や匂いもなく、温度や湿度も適宜調整されている。季節感が感じられるよう、リビングには花や壁飾りが飾られ、庭には桜やいろいろな花々を植えられている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの中でもテーブル、キッチン脇、ソファ、和室等、ご本人の思いや状況に応じて居場所を工夫しています。また、リビングテーブルの席順に関しても柔軟に対応できるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人ご家族とも相談しながら安心して生活出来るように、写真やクッション、小物や季節の物等も持参して頂いています。また、面会時に写真撮影させていただいたご家族や知人との写真を大きく印刷して、各居室に飾りいつでも見て頂けるようにしています。	入居者の状態や好みに応じた居室作りを工夫されている。季節の花々や家族の写真等も飾られ、思い思いの物が持ち込まれると共に、各室に椅子が置かれ、訪れた家族も過ごしやすいよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家庭的な雰囲気や損なわない様にし、居室やトイレも分かりやすい配置になっています。施設内な安全に自立支援も出来るように遠目でも見守りしやすい造りになっています。		